

第1回 定例教育委員会議事録		日時：令和2年1月24日（金）	
		場所：菱刈庁舎3階中会議室	
開会、閉会に関する事項		10時00分 開会 10時50分 閉会	
	教育長 森 和 範 教育委員 永 野 治 教育委員 久保田 悦 子 教育委員 長 野 吉 泰	議場に出席した者の氏名	総務課長 万 膳 正 見 学校教育課長 松 元 浩 幸 社会教育課長 橋 本 欣 也 スポーツ推進課長 田 中 健 一 学校給食センター所長 丸 目 良 平 書記 浅 山 典 久
議事日程	別紙のとおり		
審 議 状 況			
(森教育長) ただいまから令和2年第1回定例教育委員会を開会します。 (浅山係長) 姿勢を正して下さい。一同礼。 (森教育長) 「令和元年第12回定例教育委員会議事録の承認」を議題とします。事務局より報告をお願いします。 (浅山係長) 令和元年第12回定例教育委員会議事録について報告（別紙「概要報告書」により報告） (森教育長) ただいま事務局より前回の議事録の報告がありました。ご質問等ないでしょうか。 (全員) ありません。 (森教育長) 報告のとおり、承認してよろしいでしょうか。 (全員) はい。 (森教育長) 令和元年第12回定例教育委員会議事録については、承認いたしました。 続きまして、教育長及び委員の報告に移ります。 教育長報告については、お手元の12月25日から1月23日までの教育長諸般の報告をもとに説明します。 (別紙「諸般の報告」により日を追って報告) (森教育長) 続きまして、委員の皆様方からのご報告をお願いしたいと思います。まず、永野委員お願いいたします。 (永野委員)			

令和になって最初の行事ばかりだったと思います。私は、成人式に出席しましたが、教育長が言われますように、随分静かで整然としたいい式だったと思いました。人数も年々減ってきていますので、非常に落ち着いた成人式だったと感じました。

そのあとは、1月13日の菱刈剣道大会に行きましたけど、最初の方だけしかおりましたが、大口剣道スポーツ少年団がすごく頑張っていたので、いい所まで行くのではと思いましたが、結果を見ると上には上がいました。中々よく粒が揃っていて、昨年よりよくなってきているなどという感じがしました。菱刈の方は、ちょっと残念でした。年々参加団体が少なくなって、武道に対する少年団が減ってきたなどということで、しょうがないのかと思いながら見ることでした。非常にいい大会だったと思いました。

私はそのあと、自分の行事で「めのもち」をする行事がありましたので早く帰りましたが、うちの方でも今年はずっと小学生が少なく、小さい子どもたちばかりでしたけど、子どもたちと触れ合うことで、伝えていくものがあるなどと思いながら続けておりました、例年の正月行事を済ませたところでした。

続いて、1月19日の始良・伊佐地区生涯学習推進大会ですけど、教育長が言われましたように、すごくパワフルで、モチベーションナリスピーカーという言葉は初めて聞きましたが、そのことを目指しているというのが非常に印象に残って、それはどういうことかと申しますと、スポーツなどはインストラクターとかいますが、言葉でスピーチをしながら相手を元気づけるという職業が海外にはあるそうで、それを目指しているという話をされました。本当に自分の方向をしっかりと見定めて、がんばってやっているというのが、すごく感動をしました。是非、大口中央中学校・菱刈中学校の生徒に聞かせたかったなという思いと、非常に印象的な講演でした。お父さんが南永小学校の出身ですから、地元ということと呼ぶことができるのではないかなと、先生はそういうスピーカー役をやっているわけですから、どこでも行きますと言っておられました。早いうちに実現できたらと思うことでした。本当に元気の出る話で、先生は高校1年生のときは神村学園で、そのあと山口県の高校に行かれて、そのあたりの話を今の若い子どもたちに話をさせていただくといいと思いますし、この前は生涯学習大会でしたから、砂漠でのマラソンの話が非常によかったですけど、小学校低学年のときは大規模校ですけど、中学生以降は、小規模校で菅原小学校ですからそのへんのことを話してくれたら子どもたちにうけるのかなと思いました。それと、活動発表で霧島文化財少年団というのがありまして、霧島はすごいなと、長いこと子ども会をやっておりますが知りませんでした。地域を知る、人を守る、歴史を守っている人たちを知るという3本柱で活動しているということで、子どもたちの発表が声も元気が良く、いい活動をやっているなど、伊佐も歴史のまちですから団体を作る必要はないですが、その方面に向けた活動もあっていいなど、聞いていて恥ずかしかったです。非常にいい活動発表があって印象に残りました。

私の方は以上でした。

(教育長)

ありがとうございました。では、久保田委員お願いいたします。

(久保田委員)

はい。1月3日の成人式ですが、お二人が言われましたように、すごくいい雰囲気での成人式だったと思います。保護者の方の参加もすごく多くて、色々賛否両論ありまして、成人したので保護者がついてくるのはどうなのかなと言う人たちもいたり、やっぱり子どもの晴れ姿を見たいという保護者もいたり、あと、入っていいのかいけないのかといった躊躇する保護者の方もいらっしゃったので、入っていいんですよというふうに声をかけて案内したところでした。あと、ビデオレターのことなんですけど、子どもたちはすごく楽しみにしていたけど、ああこれでうちの学校は終わりかといった感じで、あの先生もいたのにと、そういうのもあったみたいで残念な感じがしました。実行委員会も4回開かれたということで、仕事をしながら夜集まってくれた実行委員だと思うので、最後の方で名前紹介はあったのですが、せっかくだったら皆さん出席されたと思うので、舞台上でこの方たちだよというように労をねぎらってあげる場があってもよかったのかなというふうに感じました。あと、南日本新聞の広場とかで、

中学生の子が自分の地域の成人式のボランティア募集があって、ボランティアになって先輩たちの成人式に花を添えられたのではないかなと、そういう自分たちもそうなったときに、後輩にそうしてほしいとかそういうのがあったので、受付にレインボーキッズの子どもたちと思いますけど高校生も何人かいたのですが、そういった先輩たちに何かしてあげたいというボランティアの気持ちをもった子どもたちを育てていくのも社会教育のいい機会なのかというふうに感じながらその新聞を読んだところでした。

はい、以上です。

(教育長)

はい。ありがとうございます。では、長野吉泰委員お願いいたします。

(長野吉泰委員)

はい。私は、1昨年まで消防団の分団長という立場でしてしまして、去年市P連の会長ということで、1回消防団をやめて、去年の4月からまた消防団が少ないから入ってくれということで入りまして、12月29日恒例の年末警戒を行いました。そして、年が明けて1月3日成人式に出席させていただきました。皆さんが言われるように、本当に静かない成人式だったと思います。お父さんお母さんが私の同級生が多かったり、知り合いが多くて、昔うちの娘がサッカーを始めたときの6年生の子どもたちが成人式だったのですかね、知っている子どもたちばかりで、自分もこれだけ年を取ったのだというのを感じました。

それと、1月12日の消防出初式ですが、今回、久しぶりに一般団員として参加してすごく気楽にできました。

1月13日の菱刈剣道大会にも出席させていただきました。途中で娘を鹿児島に連れて帰る用事がありまして、早くに抜けたのですが、私も剣道をしてしまして、久しぶりに見て昔の緊張した雰囲気味わいながらいいものだなと思いました。私たちの頃は本当に人数も多くて、確か小学校も上級生、下級生と分かれての1チームずつの参加だったと思います。中学校もまだチームも多くて、ほとんどの学校に剣道部がある時代だったので、少なくなったのを見ると少し寂しいような気もしましたが、子どもたちが元気に剣道している姿を見ると、やっぱり剣道はいいなと改めて思ったところでした。

それと、1月18日の駅伝の結団式を見に行きましたが、私の娘も今年また出走させていただく予定ではあるのですが、私の娘は、鹿児島の高校に行っているので部活動があって出れませんでした。今年は本当に去年よりいい成績を残せるのではないかなと期待はしています。

以上です。

(教育長)

はい。ありがとうございます。

成人式は本当に実行委員会の方々がよく頑張ってくれました。その委員の中に、昔課題をもった子どもがおりまして、その子が市内の企業に就職しまして、彼が入る前に伊佐農林高等学校で就職が決まった子どもを励ます会というのがありまして、そこで彼に私を覚えていますかといいましたら、よく覚えてますと、あなたは伊佐農林高等学校を代表して企業に入ることなので、あなたの仕事ぶりだけで後からの人がここに入れるかどうか決まってくるのだよと、絶対に途中でやめたり、仕事をなまけたりしないで、一生懸命頑張るんだよと言いましたら、はいといいましたけど、随分立派になったなと感動したところでした。中学校の先生たちが教え子たちをほめてくれるようなビデオレターがあればよかったですね。

はい。ありがとうございます。

(永野委員)

ビデオレターでなくても、コメントで一言でもいいのでお願いできればよかったですよね。顔を出さなくてもすむので。

(教育長)

では、教育長及び委員の報告については、以上で終わりたいと思います。

それでは、議事に進みます。

今回は、報告事項が1件、付議事件が1件ございます。

まず、報告事項に入ります。

報告第1号「伊佐市奨学生選考委員会委員の委嘱について」、事務局より説明をお願いいたします。
(万膳課長)

はい。報告第1号「伊佐市奨学生選考委員会委員の委嘱について」を説明いたします。

定例会資料は、3ページからになります。

本件は、民生委員の一斉改選により、後任の奨学生選考委員会委員を委嘱するもので、「伊佐市教育委員会の行政組織等に関する規則第24条第1項」の規定により臨時代理を行い、同条第2項に基づき報告をするものでございます。

具体的には、山野地区から選出していただいております「瀧上 正人さん」が民生委員を退任されましたので、同地区より後任の「楠原 すみ代さん」の推薦及び承諾をいただきました。

なお、任期は4ページの伊佐市奨学生条例抜粋の第7条第4項により、前任の瀧上さんの残任期間とし、令和2年1月10日から令和3年5月31日ということになります。

以上でございます。

(教育長)

はい。ただいまの事務局の説明に対しまして、何かご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

(全員)

ありません。

(教育長)

はい。ないようですので、報告については、承認ということよろしいでしょうか。

(全員)

はい。

(教育長)

報告第1号「伊佐市奨学生選考委員会委員の委嘱について」は、承認されました。

では、付議事件に入ります。

議案第1号「伊佐市中高生連携推進事業基金条例を廃止する条例の制定について」を議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

(万膳課長)

はい。議案第1号「伊佐市中高生連携推進事業基金条例を廃止する条例の制定について」をご説明いたします。

定例会資料は、先ほどお願いしました差替え資料の5ページからになります。

本件につきましては、伊佐市教育委員会の行政組織等に関する規則第11条第2号の規定に基づき、市長に意見を申し出ることにについて議決を求めるものでございます。

参考資料としまして、別紙でこの基金事業の実績書を添付してございますので、そちらも併せてご覧ください。

本基金は、市内事業者の寄付1千万円を財源としまして、伊佐市内の中学校及び高等学校の生徒が、連携して郷土の特色を生かした学習活動等を行う事業を支援するため、平成28年3月11日に設立した基金でございます。

この基金を活用し、中学校2校の楽器購入や修繕、楽器指導講師招へい、中高生による吹奏楽の発表会、中高生による演劇ワークショップや演劇の発表会、カヌー体験会、体験用のカヌー購入費の一部に充てさせていただきました。本年度をもって基金残高が0円となり、所期の目的を達成したため廃止するものでございます。

なお、楽器指導等の事業につきましては、基金はなくなりましたが、単独事業としまして来年度も継続して実施する計画でございます。

以上でございます。

(教育長)

はい。ただいま事務局から説明がありましたけれども、これは、ある企業から寄付金を1千万円いただきますまして、これを基金にしまして、中高生連携事業と名をうっていますが、実際の中身は器楽指導をしながら中高生の連携を進めていこうと、特に中学生の吹奏楽の技量の向上と、この子どもたちが大口高等学校へ進学していけるようにということで、進めてきました。大口高等学校の進学は、そんなに際立ったものはなかったのですが、本市の中学生、大口中央中学校・菱刈中学校、特に菱刈中学校は、楽器が非常に傷んでおりまして、子どもたちはやる気はありましたが、なかなかうまくいきませんでした。この事業で楽器の修理をし、また、素晴らしい指導者を招いての練習会等をしながら、相当うまくなっております。菱刈中学校の体育大会に行くと、よくわかると思いますが、素晴らしい音が出るようになっておりますし、大口中央中学校も更に素晴らしい演奏ができております。これは、生徒たちの努力と先生方、大口中央中学校及び菱刈中学校の指導の先生方も一生懸命頑張ってくれたおかげで、本当に成果が出てきていると思います。残念ながら基金が底をつきましたので、この条例を廃止するということとなります。先ほど事務局から説明がありましたように、楽器指導につきましては、やはりプロの方々から指導していただくと、随分子どもの伸びが変わりますので、この事業は市の単独事業で進めていくということでございます。

ただいまの説明について、ご質問等ないでしょうか。

(永野委員)

いいですか。

(教育長)

はい、どうぞ。

(永野委員)

一番気になったのが、要するに基金がないから条例は廃止するけど、支援とかいう部分は市の単独ですということですね。

(教育長)

はい。そうです。

(永野委員)

楽器ということで音楽ばかりの話ですけど、カヌーの関係もお金を使いましたよ。先ほど単独事業でしますということでしたが、スポーツは別枠があるのですか。

(万膳課長)

買いましたカヌー艇につきましては、簡易カヌー艇というようなものでございまして、それは各学校等に出前授業といいますか、普及をして指導をするというようなことで、今年も数回行われております。

(永野委員)

そういうところは、別枠で継続して行うということなんでしょう。

何もかもこれで終わったのかなと思いました。

(万膳課長)

令和2年度につきましては、国体に傾注させていただきまして、今後のカヌー普及活動につきましては、小学校が中心になっていきますけれども、指導をしていくということでございます。

(永野委員)

教育長が言われますように、スポーツ、音楽、芸術、美術もそうですけど、プロの本物体験をさせないといけないと思いますよね。その部分がお金が高くつくからということで、どんどん切っていくということでは困りますので、継承して欲しいと思います。

(教育長)

毎年、大口中央中学校で、みやまコンセールの方から来てくださる専門家が楽器ごとにずっとついでくださって指導してくれますので、随分違います。音楽の先生方もそこまではプロではありませんので、そういう意味では非常にいい事業ですので、今後も引き続き市の持ち出しでできる事業は、続けていき

たいと思っております。

他にないでしょうか。

(全員)

ないです。

(教育長)

では、ないようですので議決に入りたいと思います。

議案第1号「伊佐市中高生連携推進事業基金条例を廃止する条例の制定について」賛成の方は、挙手をお願いいたします。

(全員)

はい。

(教育長)

はい。ありがとうございました。

賛成多数ですので、議案第1号は議決されました。

以上で、準備された議事については、終わります。

次に、委員から提出された動議の討論等に入りますが、現在のところ前もって提出された動議はありませんが、何かありませんか。

(全員)

特にないです。

(森教育長)

はい。特にないようですので、以上で討論等を終わります。

では、その他の件に入ります。委員の皆様方からその他、何かないでしょうか。

(全員)

ありません。

(教育長)

なければ、資料を二つ準備してあります。

一つは、肥後義弘先生が私宛に手紙をくれまして、それを拡大したものを裏側につけてあるのですが、先週菱刈中学校に自殺防止のための講演会に参加されたということで、その時に、昔10年前に伊佐市の学校教育課長されていた前原先生も一緒に参加されていて、菱刈中学校の生徒たちの姿勢にびっくりされました。その時間が約80分くらいあったということですけど、もう微動だにしない。全員がしっかりとものすごく集中して聞いていると、今まであちこちで講演をしましたがけれども、こんなにしっかりして聞いた学校はここが初めてですと、去年までのあの姿を肥後先生はずっと指導してくださって知っておりますので、その生徒の姿を見ながら涙が出るくらい感動しましたということで、私にハガキにぎっしりと書いてくださいました。一枚のハガキに思いをこめて書いて送ってくれました。今の菱刈中学校の様子がみんなの努力、学校も努力したし、地域も努力したし、保護者も生徒会も努力して今も頑張っておりますけれども、そのおかげで今のものができていると思います。前の定例会で駅伝について話をしましたがけれども、いい学校になってきているなど、ただ崩れるのも早いですので、今後またしっかりと学校を支えていかなければいけないと思っています。

(永野委員)

二見いすずさんも来られたそうですね。前原先生が年賀状で菱刈中学校に行きましたといっていたので、前川原教育委員と何で来たのだろうかとずっと疑問に思っておりました。これでね。

(教育長)

もう一つの資料は、新聞の切り抜きです。皆様方もご覧になったとは思いますが、県教委がこの度、来年度の教員採用の試験基準を大いに緩和するということを発表しておりました。正式になっているということではなくて、事務局の一つの案なんですけど、まだ私どもの教育長会には説明がありませんので、ただ新聞の方が早かったということですが、今教員になりたい人が非常に減っていること、教員は足り

ないけれども、教員になりたい人も減っているということで、来年度からこの教員採用試験を緩和していくということです。一つは、臨時で先生をしている方々、この方々の一次試験の事務を免除することです。もう一つは、複数の免許、小学校の先生だったら中学校の免許とか、中学校の先生だったらその他の教科の免許とかを取得すれば加点をしたり、英検の2級をもっていたり、そういった人には更に加点をしていくというように、優秀な人材をより集めたいということで進めています。私は、一番いいのは、給料を上げることだと思っています。そこにはなかなか予算的なものもあるもので、教職員課、人事を担当する課ですが、必死になって方策を色々立てております。これは、鹿児島県に限らず九州各県、宮崎県などは、もっと低いです。このことで、教員未配置の学校解消になってほしいのですが、絶対数の不足をカバーするところまではいかない気もします。

(永野委員)

採用基準が緩和になり採用されていきますと、臨時の先生たちはどうなるのですか。後ろがないのに中間をどんどん上げて、そういうことではないですかね。

結局、教員の免許を持った人たちが、動いているだけの話ですよ。

(教育長)

そうです。本当にそのとおりです。永野委員がおっしゃるとおりです。

(永野委員)

ゼロの人たちを入れないことにはということなんでしょう。

(教育長)

ですので、教員になりたい人を教育学部にどんどん入れ、その人たちが教員になっていくようにしていくことがポイントになると思います。

その他、皆様方からないでしょうか。

(全員)

ありません。

(教育長)

ないようですので、これをもちまして、令和2年第1回定例教育委員会を閉会します。

(浅山係長)

姿勢を正して下さい。一同礼。